

# 高齢者施設等における 感染者発生対応マニュアル について

---

くらし保健福祉部高齢者生き生き推進課

まろにえ介護老人保健施設  
看護部長・感染管理認定看護師 前永 和枝

「なんか咳き込むけれど、熱がないから大丈夫」と思って働いていたら、検査が陽性だった・・・

調子が悪かったら、職員は休むことと書いてあれば・・・

あとで、症状があったのに自己判断したことを後悔しました。

健康観察が終了する前に出勤したら、発症して、施設内でも感染が・・・

万が一ウイルスを持ち込んでしまっても、それにどう対応するかがキモ！初動がとても大切。



うちの施設では、教科書的な対応は出来ている。でも、これで本当に対応出来るかな？

日頃から、マスクや手袋、エプロンを意識して着脱しているかな？使い方の手順を確認しておくことが大切。

ギリギリの人員配置で勤務しているので、休みづらくて

日頃から、どのように勤務するか考えておくことが大切。

これからの感染対策、あなたの施設ではどうしますか？

## マニュアルの目的

新型コロナウイルス感染症等の陽性者が施設内で発生した場合に、やむを得ず、入所を継続しなければならぬ場合があることから、できる限り、感染拡大を防止し、現在のサービス継続が出来るように対応を確認できる。

大きく4つに分類しています

### □標準予防策や必要な資材の確認

標準予防策, 個人防護服, 資材 等

①から②

陽性者が発生したら

### □陽性者への対応

陽性者の隔離, 陽性者のリストアップ, 施設内のゾーニング 等

③から⑤

### □施設内での体制

関係機関への報告・相談, 施設内での役割分担 等

⑥から⑧

### □療養の継続について

健康状態の観察, 対策の実施状況の確認

⑨から⑩

# 高齢者施設等における感染者発生対応マニュアル

- ① 標準予防策を再確認しましょう。 ⇒ 2頁
- ① 必要な个人防护具が揃っているか、適切な手順で着脱できるか確認しましょう。 ⇒ 5頁
- ② 必要な資材（ゴミ箱（陽性者の廃棄物の処理方法の確認）・消毒液・検査キット）を確認しましょう。 ⇒ 9頁

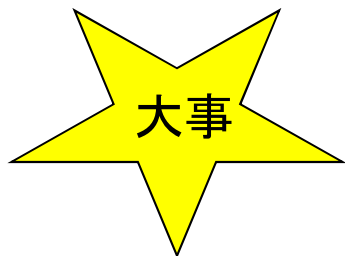
# 1 標準予防策や必要な資材の確認

P2～

○標準予防策とはケアを行うすべての場面で適用される感染予防策です。手指衛生や個人防護服の着用により、感染リスクを減少させることができます。

○感染者や濃厚接触者の人数から個人防護服や消毒等の必要な物資の必要量を見通し、物資の確保をしましょう。





# 標準予防策

(スタンダードプリコーション)

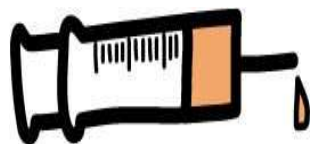
## すべての患者(利用者)の

血液

汗を除くすべての体液  
分泌物・排泄物

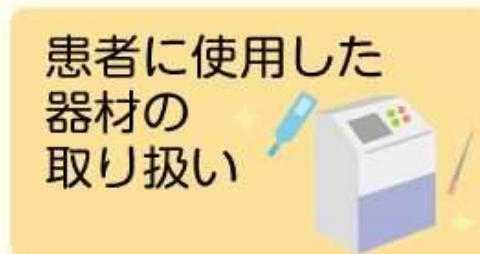
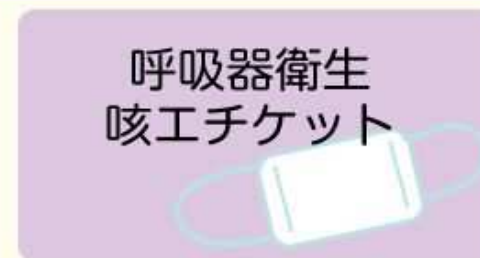
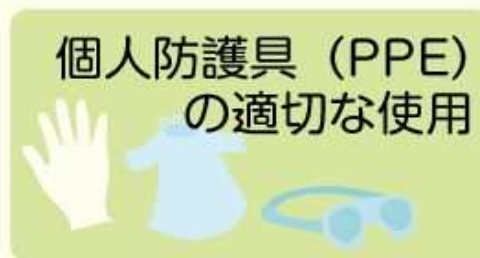
粘膜

傷のある  
皮膚



感染症の有無に関わらず感染の可能性がある  
として、扱うことである。

# 標準予防策の具体策



# 標準予防策の具体策

必要な个人防护具	実施しなければならない場面	臨床場面を想定して
手指衛生	<ul style="list-style-type: none"><li>・血液・体液・分泌物・排泄物・汚染物に触れた後</li><li>・<b>手袋を外した直後</b></li><li>・患者に接する前と後</li><li>・侵襲的な処置を行う前</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・手が目に見えて汚染した場合(血液・体液などに触れた)は、手洗いを実施。それ以外は手指消毒でよい</li></ul>
手袋	<ul style="list-style-type: none"><li>・血液・体液・分泌物・排泄物・汚染物に触れる場合、触れる可能性がある場合。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・採血の場面</li><li>・オムツ交換時</li><li>・気管や口腔内の吸引時等</li></ul>
ガウン・エプロン	<ul style="list-style-type: none"><li>・衣類・露出した皮膚に血液・体液・分泌物・排泄物が接触する可能性のある場合</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・洗淨するとき</li><li>・<b>尿などを回収するとき</b></li></ul>
マスク・ゴーグル フェイスシールド	<ul style="list-style-type: none"><li>・血液・体液・分泌物などの跳ねやしぶきが飛ぶとことが予想される処置や患者ケアの時</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・<b>気管や口腔内の吸引時</b></li><li>・洗淨する時</li></ul>



# 標準予防策の具体策

必要な場面	その方法	例・参考
汚染された器具の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"><li>・汚染物(微生物)が人や環境に移動しないように扱う(手袋着用)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・便器・尿器の片付け時</li><li>・処置などで使用した器材の片付け時</li></ul>
環境の管理	<ul style="list-style-type: none"><li>・環境表面(特に高頻度接触面)の洗浄や消毒の手順書を作成する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・手順書の作成は感染対策担当者が行うが、日常から環境整備と必要箇所の消毒は重要</li></ul>
針・鋭利な器材の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"><li>・リキャップしない、使用した針を手で扱わない</li><li>・安全装置付き針を導入する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・針刺し防止の基本</li></ul>
呼吸器衛生/咳エチケット	<ul style="list-style-type: none"><li>・症状のある人々にはくしゃみ・咳をするときには、口や鼻を覆うように指導する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・医療従事者や病院施設内にとどまらず、一般社会にも広報されている。</li></ul>

# 職業感染防止のための医療スタッフの防護(PPEの使用)

○：必ず使用する    △：状況により感染リスクが高くなる際に使用する

処置・ケア場面		手袋	マスク	ガウン	エプロン	ゴーグル
清潔ケア	口腔ケア	○	△		△	△
	陰部洗浄	○	△		○	△
	入浴	△			○*1	
排泄	排泄介助	○			○	
	オムツ交換(通常)	○	△*2		○	△*2
	下痢患者のオムツ交換	○	○		○	△*2
	使用後の尿便器の処理	○	○	○	○	
清掃	環境整備	○	○		○	
	血液体液で汚染場所の清掃	○			○	
	リネン交換	△	○		△	
	汚染リネンの交換	○	○	○		
	吐物の処理	○	○	○	○	△

「都立病院等感染管理担当者会作成 処置・ケア別防護用具使用基準」より一部抜粋 [www.tmsia.org/report/img/bougoyougu.pdf](http://www.tmsia.org/report/img/bougoyougu.pdf)

Medical SARAYA 処置別のPPE着用例より <http://med.saraya.com/ppe/shochibetsu/>

\*1：この場合は、入浴介助用の防水エプロンでよい    \*2：陰部洗浄を追加する場合    \*3：滅菌製品を使用する(マキシマルバリアプロコーションとして実施する)

# 高齢者特有の感染のリスク因子

## 1, 主に細胞性免疫が減弱

抗体産生能の低下により、予防接種への反応が減弱する。

## 6, 気道の粘膜絨毛による細菌クリアランスが減弱

肺炎の危険性が高まる。

## 2, 低栄養

細胞性免疫が衰える。創傷治癒の遅れ、意識レベルの低下や身体機能の低下による誤嚥性肺炎や褥瘡

## 7, 身体機能の低下

麻痺や失禁による皮膚軟部組織感染症や、嚥下困難による肺炎

## 3, 皮膚の脆弱化

蜂窩織炎・褥瘡感染などの皮膚軟部組織感染症に繋がりがやすい。

## 8, 薬剤の影響

向精神薬・睡眠薬による意識レベルの低下から誤嚥を起こしやすい

## 4, 胃酸の欠乏

細菌による胃腸炎が起こりやすい。

## 9, 侵襲的処置

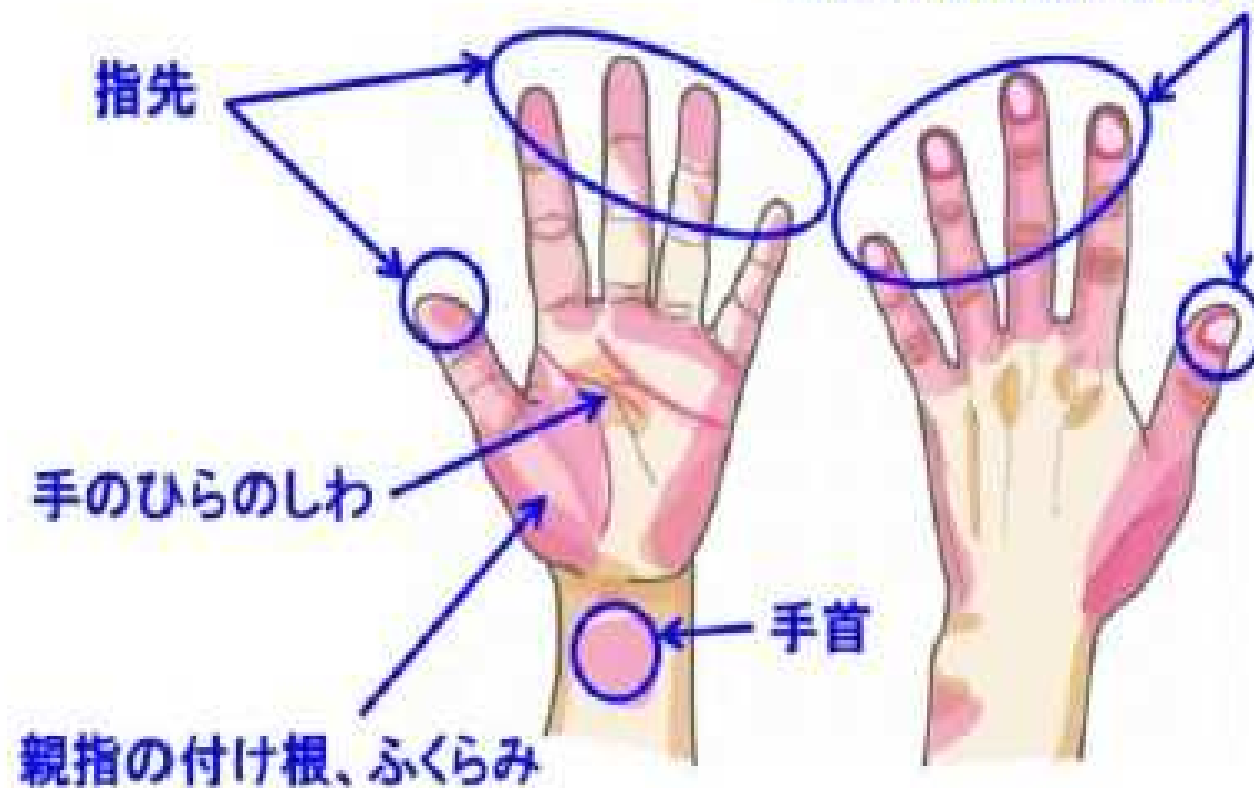
尿道カテーテル、経管栄養、気管切開、血管内留置カテーテルに関連した感染のリスクがある。

## 5, 排尿障害

尿路感染が起こりやすい

# 手洗いが不十分になりやすい部位

爪と皮膚の間、甘皮の部分



手洗いも重要です！



(厚生労働省動画)

## 【流水石鹸の手洗い】

感染を防ぐための確実な手洗い方法

12ポイント洗いましょう

1 手の平を  
こすりあわせる



2 両手の指の間を  
こすりあわせる



3 4 手の甲をもう片方の  
手の平でこする(両手)



5 指先をもう片方の  
手の平でこする



6 爪部分を洗う

7 8 左右をかえて⑤⑥を繰り返す



9 10 親指をもう片方の  
手でこする(両手)



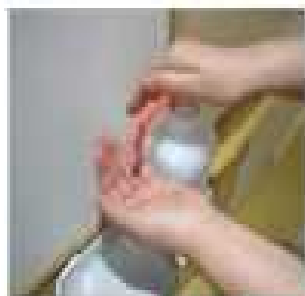
11 12 手首を丁寧にこする  
(両手)



液状石鹸を使い、時計等をはずして15秒以上洗いましょう

鹿児島大学病院ICT

## 【液状製剤による手指消毒の方法】



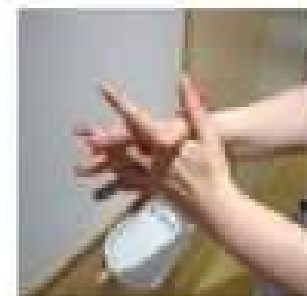
①ノズルを最後まで押します



②たまった液で爪先を洗います



③反対の手に残った液を移し、もう片方の爪先を洗います



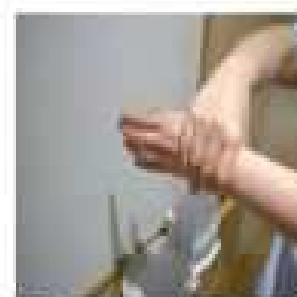
④手の平に擦り込みます



⑤手の甲（両手）に擦り込みます



⑥親指（両手）に擦り込みます



⑦手首（両手）に擦り込みます



⑧乾燥させます

\*最後はよく乾燥させましょう

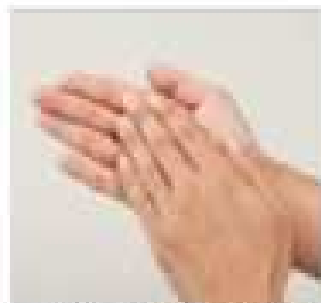
鹿児島大学病院ICT

ノズルを最後までプッシュして十分量とる。指先から消毒し、最後に手首まで擦り込む

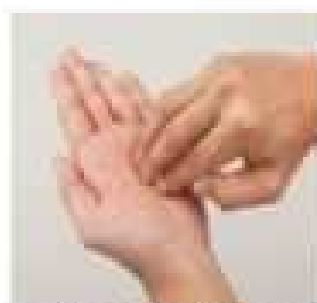
## 【ゲル状製剤による手指消毒の方法】



①手のひらに1回  
～2回押します  
(20～30秒程度で  
乾く量を目安に)



②両方の手のひら  
にまんべんなく擦  
り広げます



③片方の手のひらの上  
でもう一方の指先や爪  
の間に擦り込みます



④反対側の指先や  
爪の間に擦り込み  
ます



⑤手の甲(両手)に  
擦り広げます



⑥指の間は両手を  
組んで擦り広げる



⑦親指, 付け根も忘  
れずに擦り広げる



⑧両手首までしっか  
りと擦り広げる

\* 最後はよく乾燥させましょう

鹿児島大学病院ICT  
平成30年6月作製



# WHO推奨 手洗い5つのタイミング

手指衛生 5つの瞬間 @ 介護施設





# マスクの正しいつけ方



**正しい着用**

プリーツを上下にひらき、マスクを広げる。顔にあて、ノーズフィッター部分が鼻筋にフィットしたら、顔にフィットさせながら耳かけゴムを耳にかける。



**着用したマスクを顎にかける**

顎についたウイルスなどの飛散物がマスクの内側についてしまう恐れがある。



**鼻がでている**

自分の咳などが飛散しない効果はあるが、鼻からのウイルスの侵入を防げない可能性がある。



手指衛生  
をする



### サイズが合っていない

マスクと皮膚の隙があい  
てしまったり、口や鼻を  
十分に保護できない。



### マスクの外側を頻繁 に手で触る

マスクに付着したウイ  
ルスが、手に移ってし  
まう可能性があります。



### マスクのはずし方

マスクの表面にウイルス  
などの飛散物が付着し  
ている可能性があります。  
耳にかけるゴムの部分  
を持ってはずします。



食事などでマスクをは  
ずす時は、顔に触れる  
面を内側に折りたたみ、  
清潔なビニールなどに  
しまいましょう。

**マスクは正しくつけてこそ効果があります。  
マスクの正しいつけ方を知り、感染症を予防しましょう。**

① 必要な个人防护具が揃っているか、適切な手順で着脱できるか確認  
しましょう。

新型コロナウイルスに対応するためには、「うつさない、うつらない」ための準備が必要です。个人防护具は、**使用のたびに廃棄することが必要**なため、以下の資材が十分に確保されているか確認しましょう。

- 使い捨て長袖ガウン・エプロン（環境に触れる可能性があるため、ガウンを推奨）
  - 使い捨て手袋（プラスチック、ニトリル手袋等）
  - ゴーグルまたはフェイスシールド
  - サージカルマスク
- ※ エアロゾルが大量に発生（気道吸引、気管内挿管、抜管、マスクでの用手・非侵襲的換気、歯科口腔処置）し、室内の空気にウイルスが大量に存在しているような時は「N95マスク」が必要になります。
- \* N95 マスクは、装着方法をきちんと確認しておきましょう。（8頁参照）
  - ヘアキャップ

## 防護服等の正しい着方、脱ぎ方

陽性者との接触で職員が感染しないよう、適切な防護具着脱手順が教育され、手順通りの着脱が実施できるよう表示するなどの環境整備をしましょう。

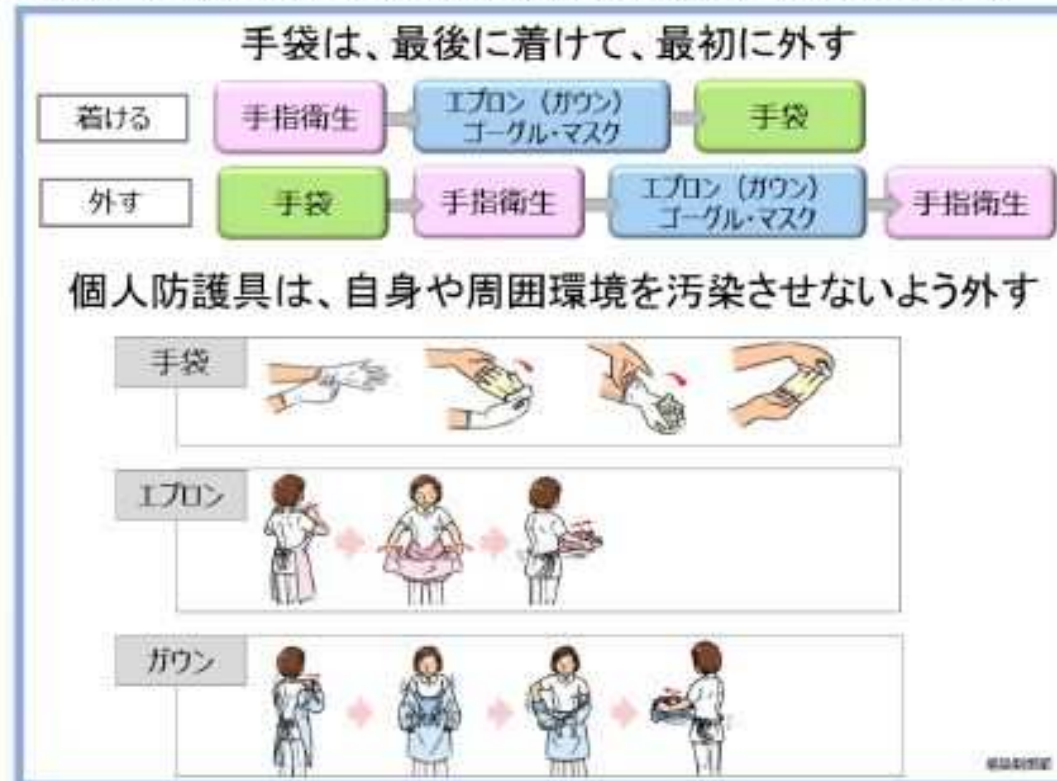
- ※ 場面や接触の度合いに応じて个人防护具を選択しましょう。
- ※ 可能であれば、利用者にもマスクを着用してもらいましょう。（マスクを着けられない利用者との接触時は、職員はゴーグル・フェイスシールドなどで目の保護を確実にに行いましょう。）



## 個人防護具の着脱時の注意事項

★着脱順番を厳守!!

- ・着用順を守らなければ、うまく外せない
- ・外すときは、自身を汚染させる可能性があり順番を守って慎重に!



鹿児島大学病院マニュアル 詳細はこちらをご確認ください

<https://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~ict/shingatakoronairusu/kuh%20covid%20manual.htm>



### 【手袋の外し方】



袖口を掴む

中表に外す

袖口内側に指を入れ中表に外す

職業感染制御研究会 HP より抜粋

マニュアルP6

### 【エプロンの外し方】



首紐をちぎる

裾の内側に手を入れる

中表に丸める

腰紐をちぎる

職業感染制御研究会 HP より抜粋

マニュアルP7

## 【マスク・フェイスシールドの外し方】



表面は汚染されているため、紐や耳掛けを持って外す

職業感染制御研究会 HP より抜粋

• N95 マスクの着け方・外し方

N95 マスクを適切に装着します。N95 マスクの製品ごとの取扱説明書に従い装着します。

例) 三つ折タイプの N95 マスクの着用方法

- 
- 
- 
- 1** マスクの上下を確認し、広げます。  
ノーズワイヤにゆるやかなカーブをつけます。
- 2** 鼻とあごを覆います。
- 
- 
- 3** マスクを押さえながら上ゴムバンドを頭頂部へ、  
下ゴムバンドを首まわりにつけます。
- 4** マスクを上下に広げ、鼻とあごを確実に  
覆います。
- 
- 
- 5** 両手の指で鼻当てが鼻に密着するように軽く押  
します。  
◎ポイント：ノーズワイヤが鋭角になると頂点  
にすきまができてしまうため、注意。
- 6** 両手でマスクを覆い、空気漏れをチェッ  
クして密着のよい位置にマスクを合わせ  
ます。

マスクと顔の密着性を確認するために、装着時には必ずユーザーシールチェックを行いましょう。マスクが十分開いているか、鼻当てがきちんと密着しているかを確認し、手を当てて息を吸ったり吐いたりして隙間がないかチェックします。脇や鼻周辺から息の漏れがあれば、もう一度ゴムバンドや鼻当てを調整して、シールチェックをやり直してください。



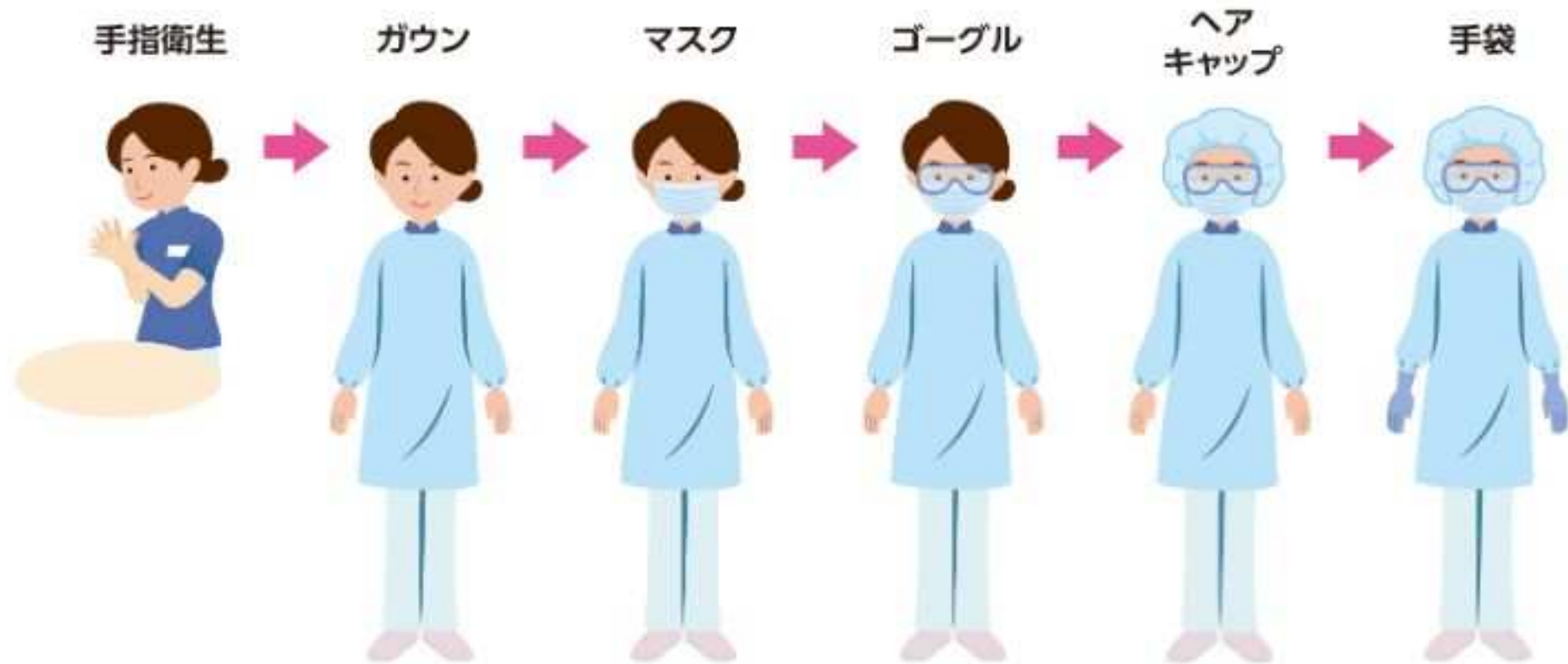
N95 マスクは下のゴムバンドを外す—マスク表面は触れないように上のバンドを外して脱ぎましょう。

その他、防護服の着脱方法等については、県のホームページに解説動画がありますのでご確認ください。



# PPE着用（キャップ使用）

着用順序

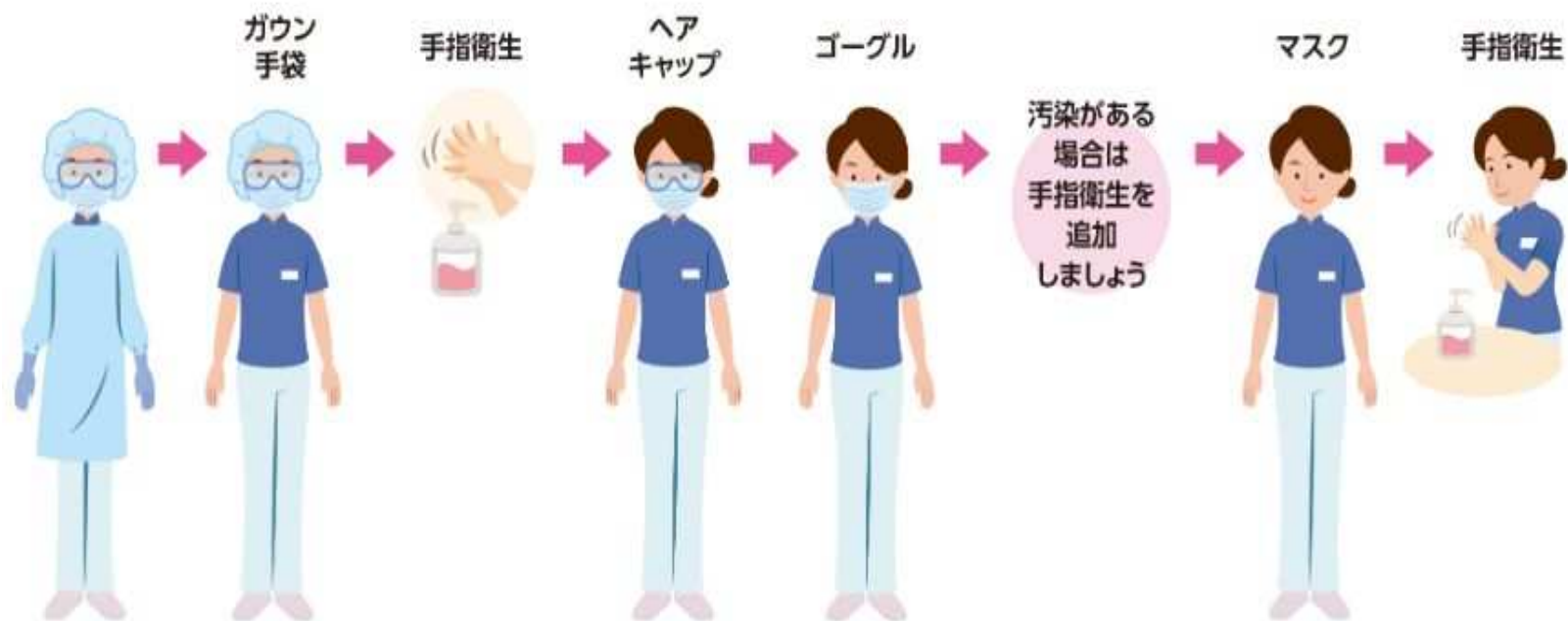


\*フェイスシールドを使用する場合は、キャップから先につけましょう。



# PPE着脱

フェイスシールドの  
場合は先にフェイス  
シールドです



必ず手指衛生

# こんなこと できていますか？

## ○整理整頓をしましょう

多くの職員が触れる場所を中心に整理整頓に努め、管理しましょう。整理整頓することで環境清掃が効果的に行えます。

## ○ガウンは使い回しをしません

PPE(個人防護服)の再利用は感染が広がる危険性が大きくなります。入所者ごとに使い捨てしましょう。

## ○PPEや白衣は消毒薬で消毒しません

PPEや白衣は消毒薬で消毒するのではなく、その都度交換しましょう。PPE等への消毒薬の噴霧は感染対策上有効性はないといわれています。

## ○事務室などでのエリアではPPE(防護服)を着用しません

個人防護服は一行為ごとの交換を行います。二重に着用しても外すときに内側が汚れる可能性があります。事務室などのエリアでは、医療用マスクのみ着用し、手指衛生を励行しましょう。

# 個人防護具の間違った使用方法



詰所内で、PPEをつけながら業務をしている。



使用後のガウンを再度利用するため、ハンガーへ

② 必要な資材（ゴミ箱（陽性者の廃棄物の処理方法の確認）・消毒液・検査キット）を確認しましょう。

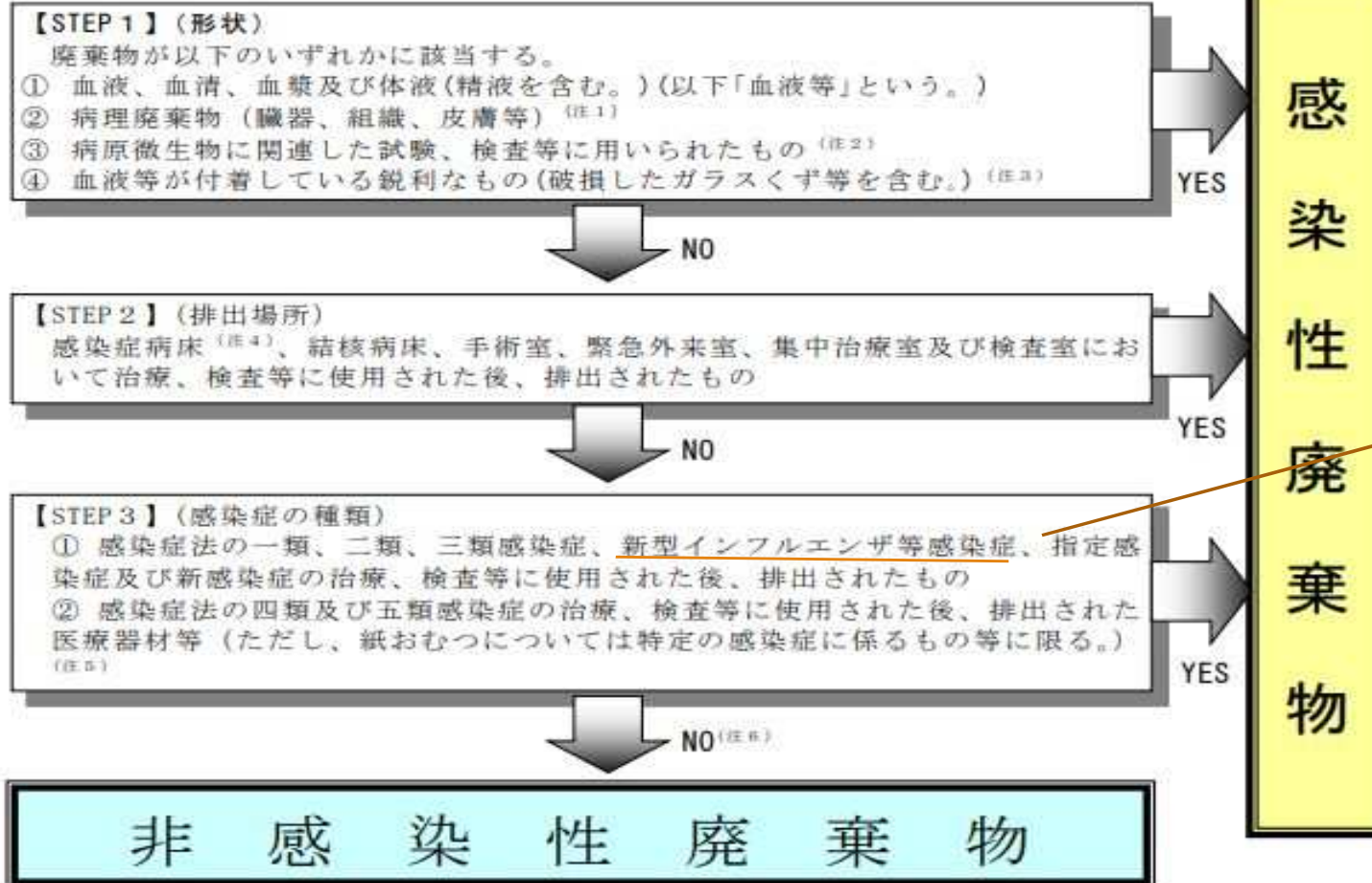
- ・ ゴミ箱

陽性の方の対応をした後、使用した个人防护具は保管せずに速やかに廃棄します。脱いだ後、その場所ですぐに捨てられるように、ふた付きゴミ箱を用意しましょう。

\* 医療関係機関等（病院・診療所・介護老人保健施設）では、新型コロナウイルス感染症患者に使用した鋭利物・血液等、治療検査に使用された後のものは感染性廃棄物として廃棄する必要があります。

廃棄物処理業者とも話し合い、非感染性廃棄物・一般廃棄物はごみ袋を二重にして廃棄しましょう。

# 感染性廃棄物の判断フロー



環境省

- ・感染性廃棄物をレッドゾーンから出す場合は、アルコールで拭いてからグリーンゾーンへ出しましょう。
- ・捨てる場合の導線も考えておきましょう。



• 消毒液

新型コロナウイルスにはアルコール消毒が有効です。また、熱湯(80℃/10分)や次亜塩素酸ナトリウムでも消毒ができますので、用途によって使い分けてください。

※ アルコールは濃度80%程度(70%~90%)のエタノールが効果的です。

※ 手すりやドアノブなどの汚染箇所を消毒する時は、新型コロナウイルスに有効な洗剤(界面活性剤)を用いて清拭消毒をしてください。

※ 次亜塩素酸ナトリウムは適切な希釈や高温・直射日光を避けて保管し、消毒効果を保つことが必要です。

(主な物品の消毒方法)

対象	消毒方法
嘔吐物、排泄物	<ul style="list-style-type: none"> <li>嘔吐物や排泄物や吐物で汚染された床は、手袋をして0.5%次亜塩素酸ナトリウムで清拭</li> </ul>
差し込み便器 (ベッドパン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱水消毒器(ベッドパンウォッシャー)で処理(90℃1分間)。</li> <li>洗浄後、0.1%次亜塩素酸ナトリウムで30分間浸漬。</li> </ul>
リネン・衣類	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱水洗濯機(80℃10分間)で処理し、洗浄後乾燥させる。</li> <li>次亜塩素酸ナトリウム(0.05~0.1%)で30分間浸漬後、洗濯、乾燥させる。</li> </ul>
食器	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動食器洗浄器(80℃10分間)</li> <li>洗剤による洗浄と熱水処理</li> </ul>
経管栄養物品	<ul style="list-style-type: none"> <li>次亜塩素酸ナトリウム(0.01%)に60分以上浸漬</li> </ul>
まな板、ふきん	<ul style="list-style-type: none"> <li>洗剤で十分洗い、熱水消毒する。</li> <li>次亜塩素酸ナトリウム(0.05~0.1%)に浸漬後、洗浄する。</li> </ul>
ドアノブ、便座	<ul style="list-style-type: none"> <li>消毒用エタノールで清拭する。</li> </ul>
浴槽	<ul style="list-style-type: none"> <li>手袋を着用し、洗剤で洗い、温水(熱水)で流し、乾燥させる。</li> </ul>

新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について(厚生労働省・経済産業省・消費者庁特設ページ)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoudoku\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoudoku_00001.html)

## 洗剤に含まれる界面活性剤で新型コロナウイルスが効果的に除去できます

### 試験で効果が確認された界面活性剤

- ▶ 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム
- ▶ アルキルグリコシド
- ▶ アルキルアミンオキシド
- ▶ 塩化ベンザルコニウム
- ▶ 塩化ベンゼトニウム
- ▶ 塩化ジアルキルジメチルアンモニウム
- ▶ ポリオキシエチレンアルキルエーテル

※ 新型コロナウイルスに、0.05～0.2%に希釈した界面活性剤を20秒～5分間反応させ、ウイルスの数が減少することを確認しました。詳細はNITEウェブサイトをご覧ください。

<https://www.nite.go.jp/information/osirase20200522.html>

※ これ以外の界面活性剤についても効果がある可能性があり、さらに確認を進めています。

## ご家庭にある洗剤に、どの界面活性剤が使われているか確認しましょう

- 効果が確認された界面活性剤が使われている洗剤のリストをNITEウェブサイトで公開しています（随時更新）

<https://www.nite.go.jp/information/osirasedetergentlist.html>



- 製品のラベルやウェブサイトなどでも、成分の界面活性剤が確認できます。

※製品本体の成分表は関連法令に基づいて表示されているため、含有濃度などの条件によっては、ウェブサイト上のリストと製品本体の成分表が一致しないことがあります。

品名	住宅・家具用合成洗剤		
成分	界面活性剤（0.2% アルキルアミンオキシド）、泡調整剤		
濃性	弱アルカリ性	正味量	400ml



本資料は、2020年5月28日現在の知見に基づいて作成されたものです。随時修正されます。

- 新型コロナウイルス抗原検査キット  
抗原検査キットは
  - 感染されている方の迅速な検査
  - 濃厚接触となった職員の勤務前検査
 に活用することができます。

ただし、感染している方でも「陰性」と判定されること（偽陰性）もあり、陰性という結果であっても注意が必要です。

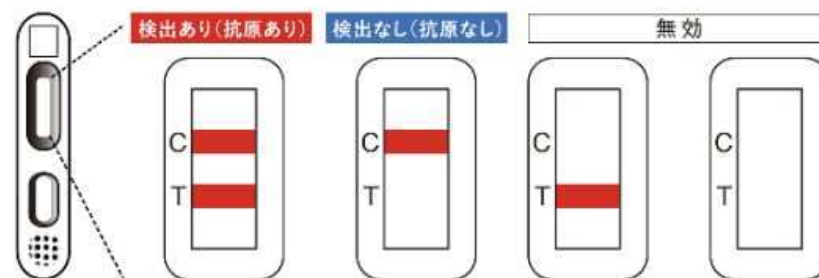
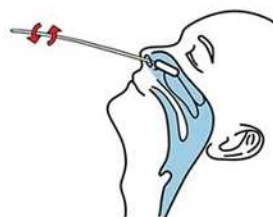
<鼻咽頭ぬぐい液>

付属のスワブを鼻孔から下図の鼻咽頭まで挿入し、数回擦るようにして咽頭後壁の粘膜表皮を採取します。



<鼻腔ぬぐい液>

付属のスワブを鼻孔から2cm程度挿入し、スワブを5回程度回転させながら擦るようにして粘膜表皮を採取します。





# 食事対応

- \* 集団での食事を中止(入所)または距離を取り、少人数で対応。
  - \* 食事:対面をさける。座ってはいけなところには印をつけるなど。
  - \* 利用者様の手指衛生及びテーブルの清掃
  - \* 介助者は、職員がマスクをつけて対応し、眼の保護のためゴーグル又はフェイスシールドをつける。
- 通所では、対面・側面に飛沫予防のシートを設置するなどの工夫を。



マスクとゴーグルをつける



# 入浴

介助者はマスクとフェイスシールド、エプロンを着用  
利用者はバイタル測定を行い、入浴へ



フェイス  
シールドと  
マスクエプ  
ロン

